



秋葉
 繪本金石譚
 四

遠13
 980
 4



著ぬ英列気色を損し。かたよと播大何故遅滞なるや。但一香炉庫
 内小あり。さうやと責問ゆ。播大之助満面紅の。成香炉ハ伊沢幾嶋
 小預置いひ。兩人今今朝より他出。飯にいらす。彼ホク飯リ。汝
 待。御覽小入。人暫時の御猶豫を願ひ。いひ。と言わ果。さう。小。英
 列居丈高小なり。おろけあぬ。拜領の品被等小預置。ハ何変。汝
 我知。さう。思ひ。さう。言。吐。我。汝。放。湯。春。移。小。耽。香。炉
 成。估。却。た。た。成。知。其。故。今日。奇。石。献。上。の。為。管。中。へ。伺。候。せ。小。
 三塊の石殊。吏君の御意。小。合。ひ。御酒。宴。の。御。相。伴。小。加。へ。小。猶。御。所
 置。小。依。て。彼。鉄。丸。成。上。覽。小。供。一。処。重。た。御。褒。美。の。御。封。成。賜。下。承。く
 子孫。小。名。譽。成。通。り。さ。う。で。宣。ハ。一。當。坐。の。面。目。身。小。あ。ら。う。て。覽。一。小。

御前小候。ザ。畠山道誓。我。功。を。妬。く。や。我。も。名。器。を。得。り。と。一。個。の。香
 炉。を。携。へ。出。ぬ。君。先。り。上。覧。く。願。御。不。真。の。味。を。り。故。我。も。手。小。觸
 て。是。成。り。小。終。る。も。あ。ぬ。我。拜。領。せ。浮。牡丹。の。香。が。り。是。ハ。何。者
 の。手。り。買。取。玉。ひ。と。問。名。ハ。夫。と。さ。う。由。故。賣。婦。成。賞。ひ。出。る
 身。の。代。め。と。五。百。金。小。賣。拂。ま。れ。と。頼。来。り。販。買。り。と。言。ね。ゆ。ゆ。小。言。ん
 則。是。果。小。耻。辱。成。子。へ。面。目。成。失。は。せん。と。巧。し。一。変。あ。れ。ハ。始。め。賞。せ。り
 引。変。り。忽。ち。我。面。目。成。何。と。言。解。ん。知。り。あ。ら。う。と。君。前。あ。ら。う。と。道。誓
 成。一。刀。小。刺。殺。し。屍。小。跨。り。く。腰。撥。切。り。し。も。中。成。強。り。さ。う。ん。小。此
 有。し。忍。心。が。た。様。辱。成。之。の。以。道。誓。成。安。穩。小。飯。せ。り。是。皆。汝。が。放。逸。無
 頼。の。方。で。所。存。り。さ。う。何。あ。ん。天。魔。鬼。小。魅。せ。し。上。の。大。禁。成。犯。一。我。誠

我忘却して傾城遊女の春色小溺ま又余少の替をた彼香炉を
道誓言くた無道の者の手へ結くるとて拳を握り身を戦せて言われハ
播戸之助也度小肝だ壁さる心地今更先罪を悔る小甲斐あ消も
果々思ひくると衝面かきけ言々中。御聞小達一いひ一上包人
中も侍らむ。今更口外たけいも面あた業小い一も伊沢幾島若洲等
が勸小わさし。宇治の堂見小泰一より傾城の情小ひく嶋原へかよ
更とかりあそく傾城を賞ひ出いひハ解人中もたた此身の
過ち如何ある刑小所一あふも露怨とむ心侍らす。但一香炉の義
ハ金子彌達の間誓時貨物小入いやういひ一故渠ホ小預置りい
一小豈計らん畠山が手へ渡一いんハ是必と深た故とてい

伊沢幾嶋が在所我尋の子細を紅向一香炉を取反さるる人と推
主人とす。英列弥怒むる色我荒らふ。汝即疾鬼が足向王とも
馬を渠ホが行衛を尋得る更我得人や。察さるる渠ホ汝小放逸
勸め香炉を貨物小入く偽道誓言小賣人深た巧く有ぬ。一
一國賊を倭舌小欺くれ大禁を犯一酒酒小溺る。暗弱愚昧あて
論とて不足伊沢幾嶋ホ我上京成々。己等が奸練の露頭せ人
更我恐も早く逐電せ。あ然ハ如何小尋るもの當地小捕
一得んす。先頃賀島香之助也。測主従を討く立退し。汝ら放
一湯より更起。あ其本乱して未治る者あす。あ日愚の
子と不知仕番の名代小上。今更千悔さるも及ら。昔此年月

伊沢幾嶋

君忠の為小心を責て一度も不覺を取らるる小公今日不圖道誓言ふ
 小いし辱守我受一更皆是汝が為業あり我既小郎小飯切腹
 せんし心我決一退出せんし小官領細川頼之主君の脚丹意を
 仰せしれ吾ホ又子余我表せし是見よ此双六の石一雙我賜た
 一八清も深た判一物昔胡国の王一人の子有し小国禁を犯せり是
 刑罰せん為獄小囚置りる小其子獄中小在り初く双六我製作し是
 を又王ト献と又王其手段をば是を歩綫小其石二ツ並行しは敵石
 是を新更社ハす若石我分ち放りて行時ハ急ち敵石是我断り取
 茲小於一王大不悟王又子ハ是一雙の石のく一人を殺一人残ら其
 身危うし心我もて此技を作し刑罰を免せりとの願し

と知其智が我感ども遂小我子の禁獄を許し又子朝小並立り國家
 我治りとは是双六の濫觴しと頼之主此心を以り石我小賜ハせ
 一由我生害をしめ汝が死我も宥り仁慈の継僅二個の石なり
 又子が命を乞われらるハ下氏々玉あり勝る賜宥り汝が一命を
 乞ひもかる故一何れバ死罪一等を免し得させんは上の大禁を
 犯し拜領の品を失ひ者其終一置留を君への中欽永一勅當た
 る也一汝若柳ゆくも武士の勝を具へあむ彼香炉を皆及一罪我謝せ
 よ官領の情をうけし又子余我とくの石一個ハ分ちて汝小得させん且
 離き其石の再度遇合工夫然りしは一言屬一如何小や若も播す
 門前より追拂ひいへ色荒々指揮しれども胸ハ子故小搔曇る泪の雨

小やもあらん斯る処へ篤嶋護平あつたけ平ひら心こころ多く這出願こゝろくハ僕わがも脚殿賜あしどのたまひ
 座成立まゐり階房かゐらふへぞ入いりたる。播は大おほ之の助すけハ賜たまひりりたる。双ふた六むの石いしを頂たかれ頼たの之の仁にん
 惠めぐみしく又またの慈悲あはれみの肺肝はいかんハ深思ふかひをり。今いまぞ始はじて香か之の助すけが練あそみ時ときに
 倭臣わいじんの陥おとふ所ところへハ我われ悔くやむ。今いまハ何なにてふいひもああれ千尋ちひらの海うみ成なりたる泉いづみ
 郎らうの深ふかを歎なげふままごととくく成なり護平あまのり種たね々々練あそめくくとと終ついふふ六む角かくの印しるしと
 伴ともひ出いで朱雀しゆさくの別荘べつしょうふふりりたる。唐衣たういチち怒いかれ今いま宵よハはかか傾かたむく
 ままくくの月つき成なりたるはひひと燈あかり下くだ面おもてををひひけけるるけけとと憎にくむむとと又またな
 さされれたる。播は大おほ之の助すけチちああれれ子細こさい成なり知しれれハハままうう怒いかれれ理ことわりカカ脚身あしみとと予より
 契あきハハ今いまハハ是こゝろままでのの緑きぬハハ有ありり。我われハハ又またのの勳いさ成なり得えたる。果はたししてと不ふ可か

播大之助又の
 勳成得たる
 東師を立退
 する



あれど。御身も親同胞の絆へ既。何方へも嫁たいへ。涙と俱いっしょ一五二十を
 抄録しりぞりたれど。唐衣たういよととちりたて。君をく。流落りゅうらくせ進すすり。ハ皆みな妾めかけが
 身みより。更さらの起たり侍まり。吾わが侍まり。甲斐かゐあた女めあが。如何いかも。してその
 香炉かうろを奪返とんぐし。帰かへ泰たいの道みちを。用もちた。も。吾わが侍まり。兄あにハ賤いやした者ものハ。小この
 一ひとも。世よハ頼たのみ。を。男おとこ侍まり。まげ。彼所あそこへ。御身おんみを。と。物ものの。高たか儀ぎを。も
 け。一ひとも。強つよく。御おん暇ひま玉たま。ハ。ハ。劇川あき中なかつ。身み成なり没なして。後のち乃すなは世よの契せき
 を待まち。も。争い争い。異人いじんの。嫁よめたい。更さらハ。承うけ。色いろあ。播は。之の助すけ。と。あ。ま
 々まれ。も。其身そのみも。柄え。と。落お。猿さるの。ど。立寄たより人ひと方かたふ。れ。平へい。と。高たか儀ぎ。
 一ひとハ。先まづ。御身おんみが。兄あにの。行ゆ。身み成なり。と。合あ。て。兎角うづつの。更さら。成なり。儀ぎ。一ひと。其夜そのよ。朱しゆ
 雀すずめの。邸うち。ハ。何是なにこれの。更さら。結むす。明あ。一ひと。翌朝あした。二人ふたりも。坂東ばんとう。順したが。礼れい。と。旗人はたしの。体てい。小

身み成なり。縁ゆかり。装ま。一ひと。唐衣たういが。兄あに。遠列とんれつ。金屋きんぐわの。者もの。ある。川かわ。越こ。長造ちやうぞう。ある。者ものの。方かたへ。と
 下した。里さと。り。
 英列えいれつ。純じゆん。清包しやうほう。制せい。作さく。刀たう。劔けん。條じょう。
 叔しやくも。榎本えのほん。英列えいれつ。ハ。子息しやくしやく。播は。之の助すけ。を。勘當かんたう。一ひと。此上こゝハ。伊次いさ。幾島きやうじま。行衛ぎやうゑ。と。吟ぎん
 味あじ。一ひと。香炉かうろの。一ひと。件けん。を。乳明にゅうめい。一ひと。罪つみ。ふ。久ひさ。と。入夫いんぶ。を。分わ。つ。草くさ。成なり。け。尋たづ。搜さう。さ。一
 め。れ。も。絶た。て。其その在あ。所ところ。を。さ。れ。も。大おほ。小こ。塙はたけ。を。失う。ひ。急使きやくし。を。立た。て。本國ほんこく。あ。る
 多賀嶋たがじま。伊織いぢ。が。方かたへ。此度このたびの。一ひと。件けん。及およ。び。伊次いさ。幾嶋きやうじま。が。悪事あくじ。成なり。告見つげみ。受次うけつぎ。景けい。不ふ
 搦捕獄なつとら。下した。一ひと。ハ。と。中なかつ。ハ。一ひと。如何いか。して。香炉かうろ。を。貸か。ひ。及およ。び。と。食く。食く。
 然しか。忘わす。れ。思慮しりゆ。を。廻まわ。り。多おほ。所ところ。ハ。室町むろまち。殿との。より。上うへ。使し。成なり。以も。て。英列えいれつ。更さら。所ところ
 芳平ほうへい。癒い。一ひと。幾干いくせん。も。あ。る。ぬ。小こ。深山ふかやま。ハ。今いま。入い。奇石きせき。を。穿う。ち。殊こと。更さら。悪蛇あくだま。の。妻つま

小觸一糸疲勞さど有る人然らる小播才之助家禁を乞せしめて勘當せ
 趣致ゆきありてハ英列在番せん難儀と人是ふらる在番せ免
 間家城子飯里心静小保養成加ハハ命せられ敢て香炉の御礼あられ
 英列大小悦ひ深く君恩を謝しをり。種々小上使を御食進で送飯て扱
 俄子飯国の用意をり。翌日管中へ恭候し御暇中上京都成さる東
 海道然下里多る日成経三列猿が馬場の布を打過る小軒端頃
 たぐ草成生し柱斜小正さる茅屋の門辺ハ五十の上成セツハツむらり
 起らむしとれた姥古鈍もて撲を割居るる二握むらりや有る人と
 思わぬの太た木成少割ち切し。利力を以て氏を裂衣がし聊も労
 する味あり。英列不因眼小らあり。馬をよめ稍久し眺も居るる小

姥ハ英列が日勢敷将将ハ馬上美々した味ゆく立津多る小目もやしと
 尚一心小木を割居る。英列深く縛も馬より下まき姥がむらり小立
 寄。老女が持る鈍ハ何国め需ら如何ある鍛冶の作まるや。昔
 々々ハ一見を許し人やとり小。姥衛小手成る。英列成るて微笑
 當所ハ關ハ列の諸候の往反ある街道ゆく且夕往々及々の武士とく
 もるるる。遂小姥が持る鈍小目成るる人ハナリとる小。君の
 先刺より目をとらるる心憎く思ひたぐりた。物して異一の賤う手
 馴も鈍あれども利斐ハ佩せむ太刀のやハカカミとるる。是ハ姥
 が夫ある者の夕迎業小ちる物ゆくむらり。更もあけのひく差出
 しぬ。英列心中小。凡者あすす。鈍を手小し熟んる。姥

英洲 秘王 二王 借包 家 筋



又金味尋常の鍛冶の及ぶ物あり。如何なる名をとりて鍛冶の
 の鍛一ありありとあはしくなるに感賞一。老女小向ひて。御身が夫ハ今
 宿小在や。同小昼寐してさしきりて。起出る候待り相見せ
 ん。従者のうはぎ一校箱より寄て腰あられを焼ハ丈を呼起さん
 ともせず。再ハ推木を割り望ぬ。兵列ハ従者どもの欠伸しつてや
 成耳めもけど。一時余り待居るふ。衛家内小赤あはぶ。色きるえ
 くれハ老女手然とわらふ。今ぞ主の起る。御用あどさしりて。主
 せめくとも向り先小を入る。兵列續りて通アらん。小庭中ハ
 孔珪が草狼藉と生茂。席上ハ陳蕃が。積堆まが。積アらん。も
 せ。死。荒。庵。小。六十。余。りの。老。夫。敬。蓮。の。上。小。類。杖。つ。れ。く。寐。と。な。る。居。て

くらぐら。木成刀さし。一番通ぬ不如。玉をさるる。更ハ玉人不如。之。玉
 鉄をさるる。ハ名鍛冶。如く。願ハ。勞を辞せず。我家城。未だ
 彼。靈鉄を。目利。然る。命ハ。刀。小。抄。て。得。させ。ん。や。又。余。義。も。なく。頼
 々。清包。元。来。緒。候。の。需。を。厭。ひ。く。跡。を。隠。し。至。今。英。列。が。記。を。早
 ち。賢。小。下。る。心。を。感。じ。何。さ。る。千。金。を。賜。ら。ん。あ。い。ど。刀。う。て。よ。い。や
 せん。ハ。百。度。使。者。成。来。し。も。承。引。の。り。も。君。と。く。入。成。足。能。を
 知。賢。主。あ。い。推。参。し。く。其。鉄。の。善。悪。成。足。定。め。刀。劔。小。な。く。べ。く。清。包
 が。一。期。の。力。を。使。し。鍛。ひ。進。了。せん。快。く。領。諾。を。英。列。大。の。悦。み。清。包
 が。高。貴。小。阿。ら。む。利。欲。小。逐。ハ。さ。る。性。貨。を。さ。る。弥。信。伏。し。願。く。駕。小。乗
 し。相。伴。ひ。く。濱。名。小。飯。了。客。舎。小。し。り。て。重。く。御。食。應。し。一。兩。日。過。て

先。彼。の。眼。力。を。試。ん。と。藩。中。の。緒。士。成。集。へ。其。後。清。包。成。呼。出。し。各。帶。る。所
 の。大。小。成。堅。底。せ。し。り。祈。ふ。一。祐。明。齊。也。来。合。せ。し。れ。俱。小。座。ふ。り。死
 見。聞。を。清。包。ハ。英。列。が。佩。刀。成。り。緒。士。が。佩。刀。成。目。利。を。さ。る。僅。朝。三。寸。許。抜
 し。早。是。ハ。備。前。の。維。作。是。ハ。大。和。の。何。某。が。鍛。ひ。是。ハ。真。なり。是。を
 偽。なり。と。切。銘。鑑。目。小。至。る。と。一。々。辨。別。し。る。小。存。節。を。合。せ。り
 一。一。点。也。違。ハ。れ。ハ。英。列。も。り。並。居。る。緒。士。其。明。察。強。紀。成。感。一
 あ。る。其。後。彼。鉄。丸。を。錦。の。裏。衣。小。入。高。足。の。墨。小。と。え。近。習。の。普。侍。捧
 出。清。包。が。前。ふ。り。其。引。退。く。清。包。頓。り。裏。成。解。て。鉄。丸。成。取。出
 し。稍。暗。く。抄。返。し。は。鉄。色。成。熟。と。さ。る。膝。成。當。と。抄。某。幼。少。の
 昔。より。和。漢。の。銅。鉄。を。さ。る。と。幾。百。千。の。數。を。さ。る。と。垂。未。だ。り。か

靈鉄を凡侍らむ。支那天竺ハのさあらず。皇國六十八列の同ふくふ
 鉄を産する所恐らくハいす。実ハ不側の鉄ハ侍らむと賞敷一
 止む。英列大ニ感一。足下の眼カハ神ハ通ず。此鉄九子就てハ一條
 の奇縛あり。夫ハ斯く云くと千壽々峯の麓ゆく蛇神の落せし條
 落ゆなく結里とせせられハ。清包毎度感慨一。此靈鉄を刀ハ折い
 希代の名劔とかりいり。老の思ひ一。一期の暗業いふも丹絨を凝一
 て鍛ひ上いん。あハあれども等閑ありハ叶ふいん。別火澗齋一。身
 を清浄ふなり。鉄を鍛し凡百日す。後刀ハ造り初なりハハ刀乃
 成就ハ凡半年余の日月然経い下とぞヤク。英列大ハ悦ハ然つハ足下
 夫事も當城下へ引越ハ居宅ハ望の地ハ建遺一。あんと勸まて

清包敢く昔んざと。某尊貴の需成厭ハ。父母の國成去。扇鄙の塵ハ
 名成埋い小。今吏君の技知人。日前小脚賭を受い。天下の人の物
 ハ小いハ唯翁ハ茅屋の辺小。死室ハ建賜ハ。吏足以人トヤ小。より
 英列も其強べく。望小任ハ。茲小於。清包席ハ。辭ハ客
 人言小。飯。翌日暇を告。既宅せん。瓜を小。英列拜客。一。件の鉄。及
 ハ未錢。若テ。士卒小運送。せ。別小番。通小命。して。清包ハ。家の後ハ
 一軒の假屋を建。せ。清包大ハ悦ハ。四方ハ。七五。引廻。一。東の方ハ。社
 檀成。設け。假屋の裡ハ。堅く。余人の出入を。あ。月。垢離。成。ハ。別火
 精進。一。天晴。名劔。成。出。さん。一。味。食。成。忘。身。一。先。地。金。成。鍛。を。

怪念喫一碗酒破五戒條

却説彼藤川小住、小柴が伯母賤女が子の烏婆作ハ孤となりて番場の宿近、瓦瑞徳寺にて禪刹小入、佛弟より名を怪念と称して且夕経論諸典を学び、小天性智才遅、為人小従、以倍学業發達、大慨禅機活潑の旨、成究め、預め諸経の蕴奥、成叩死修学の窓、小坐雪を集て、八夜の明る、成覚え、座禅の床、小祖師西來の意を、煉て八日の暮る、成と守、春成送里、秋を起、年既小二十三才小なり、て身の丈高く、力量乏人小勝、まゝ師の坊成始、け、同宿の法友、奉て賞譽言せ、さるハ、まゝりたり、然る小當寺の寺法とて、所化の僧徒、朝より正午ま、ま、ハ在々宿々、成純鉢修行するを、ハ、い、怪念も日々遠、の村落を修行し、歩行多、小一日例の、成、純鉢小出、多、所折、

水無月中旬、過る頃少、ま、も例より、ハ照強、久、膏雨降、おれ、道芝の草木、由枯、お、れ、大地も乾、死破、る、絆、を、小、暑、れ、と、成、な、く、さ、も、の、姓、念、も、炎、暑、の、為、小、照、蒸、ま、さ、り、と、歩、つ、つ、小、亭、午、ま、ま、さ、り、幸、し、て、醒、井、の、釋、ま、で、未、了、頻、小、喉、乾、死、且、空、腹、ふ、り、り、と、弥、苦、熱、堪、が、し、身體、十、分、疲、ま、さ、り、後、小、眼、暈、り、前、路、を、弁、せ、が、れ、ハ、傍、の、家、小、立、倚、水、成、を、人、を、呼、び、家、内、の、者、午、睡、お、ぐ、せ、小、や、敢、て、答、は、る、ま、の、あ、ら、ま、此、家、ハ、是、性、夏、の、客、旅、小、酒、飯、を、高、ま、煮、賣、店、小、美、淋、焼、酎、り、小、成、陶、小、毫、と、店、小、置、猪、口、茶、碗、の、類、を、其、前、小、ま、く、な、り、置、り、怪、念、余、り、の、飢、渴、小、堪、え、中、の、一、大、茶、碗、搔、り、美、淋、を、盛、り、陶、り、て、お、し、と、う、は、り、餓、鬼、の、水、を、得、り、と、貪、飲、な、る、小、年、束、制、戒、

嚴多禪利為人未酒の味を知りし就中味ハ甘美ある美淋を偈せ
 一只喫サ一更あはれ其味ハ更小論る小物なり。公に中山の酒蜀郡
 の蒲萄酒ハもあつた天の耳露水あやう味ハあんく舌ハ一忽ち
 飲酒の林示戒を忘却一答むる人の心を修ふ事續く三四碗許飲し
 い々空腹の上よりハ大醉を獲し家由大地由舞傾く一見えさ
 由多年琢磨サ道心一時小ハハ蕩け浪滄くして立出る此家乃門
 辺小童小伏る鶏の有るが三色三色時告るは多々我怪念醉心
 此鶏已を答むるを僻心得し大ハ怒り衣の袖裏上人こく尚我
 酒を飲る瓜答る悪れ畜生の答まの野辺乃稚子の獺男小射れ
 沼の蛙の蛇小吞るも己志むく故なりハあまやいで引襲者との

一今一碗喫せんと筆の下より法と手成さ入逆強ぐ牡鶏成搔抓
 一ちち締り殺し多ハ浅猿を悪行かりたり然るふけ家の西隣を
 彼阿部屋橋内が家ゆく娘狭衣ハ去年の春賀嶋香之助を懸想
 せしより。ふぬ月の開るふぬ月うも忍の里のちのひも。とや彼人京
 よりの飯さふ門辺成過る更とやと身の暇と小あまむ店の端辺り立
 出る上り下る旅客小因をくもて窺ふく己ハ二年ふ及ぶとつれも
 其人小似る人ふあふ。されも尚思屈せず。さふ母ハ他小出又ハ午睡し。
 召使ふ卑女下男も或ハ寐或ハ他小出起居る其身独あれ例の
 一々端辺り出く往來の人をあが居る小若法師の隣なる家
 の鶏をくく殺し喰成見鶏盗人との心得あまやとつれ人成呼ん守



僧怪念
酒狂
阿部の
娘
衣小迫
斬
去
久
巳
ま
る
園



り
を
物
は
く

怪念

急遠近人を馳く医成迎へ絶つ狭衣を久抱た眞の間の連行種く乃
良薬を服せり鍼灸并成りし屋の棟小人成上りく呼活ふくく
皆く生の既く倍周障もひたり

狭衣子絶死怪念逐電條

柳酒心憂の名ある成以く憂を拂ふ玉帚もひ百薬の長しつゝ願神の
效術換骨の靈方なりといふも是小荒れを忽ち身成亡く國家成滅しる事
眼前なり禹王酒を弑飲て後世の成は是を以く国成亡る者有人と鍼を
蜀帝も酒を醸しり成禁じ大聖世尊ハ五鍼の隨一く玉ハ般若論ハ三五
の失を奉梵網経ハ人ハ酒を飲しむま五百生手のある者生ると説戒ある
とかやされハ瑞徳寺の汝彌怪念ハ一時の酒狂なり挿内ハ覺女狭衣不意絶

蘇生ざる風流そやとく小汝成りし成狭衣ハ母小柴ハ他所有く是成き
茲ハ信々偽りし足成宙小端だく走り海に我子の骸ハひこと取掘りしを
成放つととくは後ハ理の中の理なり挿内ハ忙然と緒医小向ひと蘇るべ
術まづ平金成惜しむ今一應療しむれしと色曇らせく頼もるる列
医頭然り今ハ六脈も小断景色ハ斯妻里もまむハ扁養ハ再生せむ知
と恐くハ華陀仲景も来るも生小及を術ハ成り成初の妻より七人の
数ハ入玉のり成りし是も宿世より定まらる妻や作るも又母の悲
歎を推量し泪ハ鼻成はせつ皆く成止りく飯もたれも母ハ只愛ふゆ
心地くく空ハ死骸を抱た上成りく吾儕もく世ハ幸ある者あり先ハ宿せ
男子ハ三月上りふ上り成故より右く鬼々路頭小捨り生死成知りし成悲

男泣かこみあがて泣なくくる。人ひとも理ことわりよと思おもあがる。而しか親おや成な練れんさく。病やまゆく死しひむひ
 めめ付つくがしむ。萬まん一いち蘇そ生せいまふ。死しひひつす。二十四時にじゅうよっしが経た入いり。守まもりせめふ
 んがひひたれ。二人ふたりはよく細こ成なりちち。今いま斯ごとよと思おもふもの。さうもさう二に度ども
 うろこもやとて。校がう衣い骸がい成なり禱たうの上のうへ小こ寐ねさせ。有あるある。祈いのち禱たう呪まじ手て成
 尽つす。橘たちばな内うち夫婦ふうふ枕まくら辺へ成なり去さむ。祈いのちね神かみ佛ぶつハかり。却また結むす當あた所ところの村むら長ぢやうが
 祈いのち小こ若わかし者ものがも。姪めい念ねん法ぽう師し成なり荒あ縄なをく縛むすり。白しろ破やぶ子こ引ひ居ゐ一いち五ご十じゅう成なり祈いのちれむ。
 村むら長ぢやう作しやく太たい丈ぢやう甚しん小こ憤ふん。怪あや念ねん成なり化けと。脱だつへ。母ははを。賊ぞく法ぽう師し汝なん何なに國くにの牛うしの骨ほねもま
 ん。斯ごと重じゆうの罪つみ成なり犯かり。多おほと。比ひ王わう。姪めい念ねんハ猶なほも酒しゆ氣き醒さめが。ゆも繩なはの者
 の辨わづら中ちゆう。河か部ぶ屋や橘たちばな内うちが娘むすめ絶せつ死しせ。ま。生なまみ。既すでに死しせ。六む我がも助すける道みち有ある。
 通つうぜられ。校がう衣いを己おのが姪めいあ。一いち尚なほち。既すでに死しせ。六む我がも助すける道みち有ある。

何なにも陳ちん謝しゃして適あたせ。やと思おも惟ただ。作しやく太たい丈ぢやう向むかひ。今いま人ひとの祈いのち成なり成なり
 むひ。ハ貪おん道だう成なり憎にくむ。む。理ことわりなれ。彼か人ひとの。以もつ所ところ身み小こり。て露つゆ覚さえ。む。ハ。げ
 前まへ小こ彼か人ひと。是これ非ひ成なりも。は。む。思おも僧そうを痛いたく打うち擲ぢやく。刺さす。縛むすり。脚あし内うち。思おもき。
 む。身み小こ犯か罪ざいの覚さえ。む。れ。到いたる。所ところ。言こと解げん。と強あく争まがり。争まがり。思おもき。泰たいき。
 理ことわり非ひの解げせ。若わ人ひとハ。む。む。脚あし身みハ。村むらの是これ非ひ曲まが直ただを。外ほか。む。職しやく小こ居ゐり。ハ。解
 付つく。人ひとは。せ。む。貪おん道だうハ。近ちか村むらの寺てらの所ところ化けゆ。今いま朝あさより。修しゆ行ぎやう小こ出で當あた。彈だん。来きる。頃ころハ
 亭てい午ご過かゆ。炎えん暑じゆ小こ照てい。蒸む。是これ飢う渴かつ小こ臨りん。彼か酒しゆ律りつ小こ入いり。湯ゆ水すいを。乞こへ。む。空くう
 せ。其その。せ。む。さ。む。答こたへ。る。人ひと。あ。む。む。せん。と。あ。て。ま。出でる。折せり。何なに。何なに。一いち頭とうの物もの
 ま。り。来きり。門かど辺へ小こ有あり。牡うし鷄けいを。は。と。と。入いり。遊あそぶ。人ひと。守まもり。僧そう徒だうの身み。と。是これを。む。ふ
 忍しのび。と。有ある。合あ合あ茶ちや碗わんを。と。つ。物もの小こ投な付けり。物ものハ。是これ小こ取とり。て。や。鷄けいを。捨すてり。遊あそぶ。人ひと

上まで鶏ハいさぎ死せむや有らんと取上るる。物ハ喰殺されたる。隣
 あり家の店ハ女一人まゝ有ら。我鶏を持て成る。鶏を盗む。僻居ハ
 色喧ハ人を呼ぶ。貧道其釈を言解んと鶏を捨て走り行ハ女
 其身成追ぞと思ふ。身成翻して逃んと物ハ躓て倒レ急所あり。女
 氣絶セし体ハ抱たれ。呼生る時ハ一人の男走里ま。貧道ハ女ハ
 追り戯る。女ハ有無成り。貧道を續る。女ハ賊法師よ
 呼り。友迎ハ輩弛集ハて。女ハ懲り縛り曳き。侍ま。有
 願ハ故を察して。貧道ハ無失の科を宥む。女ハ縛り。作太
 夫。呵々と咲ハ。鋸屑ハ。汝布留那ハ再生す。鷲を馬と
 言得る。馬ぞ。今般の罪を言解得ん。女ハ息ハ。

臭。且鶏を殺食て口の。鶏血の付。法衣を。禪家
 乃徒弟。知られぬ。禁戒嚴。宗法ハ背た。如何ハ渴。其酒を
 人家ハ入り。酒ハ。則踏盜戒を破る。然の。其酒を
 飽。喫ハ。飲酒戒を破。鶏を殺。殺生戒を破。將橋内ハ女ハ
 追。無休ハ。寢。邪滿戒を破。其上今。我面前。横舟を。罪を免。偽言を吐。取
 破戒無慚の賊法師。汝是。尚陳。言葉有。責問。所
 破戒無慚の賊法師。汝是。尚陳。言葉有。責問。所
 の。姪念理ハ。押。返。能。首を。作太。夫。緒人ハ向
 ハ橋内ハ女ハ生死。渠を地頭。罪科を。代官の意。任。必。

眠ねむきりしし死しにに安やす成なり茶ちや火ひせんせん心こころ苦くるししとと沐み浴よくををせせをを晒ひくく結むす上うへ瑤ぎよく瑠るのの挿さしくく
 金きん銀ぎんのの字じをを飾かざりり京きやう深しんのの衣えをを重おもきき重おもきき着きせせ萬まん生せいるる時ときののくくくくくくくくくく
 日ひ未み片ぺん時ときもも放はなつつてて男おとこ扇あふぎ子こ成なりてて帯おビををせせ棺くわん小こ収おさめめてて奠けん小こ奠けん
 葬さう式しきのの具ぐ美みくく道どう師しのの僧そう女にょ先せん中ちゆう親おや類るい眷けん族しゆく泣なきき奠けんをを死しせせ
 省しやうのの東とうをを三さん昧まい小こ埋まい葬さう終しゆう小こ堆たいのの墳ふんのの主しゆうととをを小こ多た美みやや如に露ろ亦また如に
 電でんのの世せいのの常じやうをを死し嵐あざな時ときとと吹ふくく桃とう李りのの花はなのの女にょもも空くうくく九く泉せん
 のの流りゅうままふふ散さんぬぬ末まつのの露ろ本ほんのの平へい後ごをを先せんとと有あるる有あるる為ため轉てん変へんとと悲かなししとと人ひと
 袖そで成なりててぬぬははななりりとと

繪本金石譜前編卷之四畢

